



TITLE:

世界金融ノ中心トシテノ倫敦ノ地位

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

CITATION:

神戸, 正雄. 世界金融ノ中心トシテノ倫敦ノ地位. 經濟論叢 1917, 4(4): 577-577

ISSUE DATE:

1917-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127188>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科大學

經濟論叢

第四卷 第四號

大正六年四月一日發行

論說

Unto this Lastヲ讀ム(一).....法學博士 河上 肇

官業問題ニ就キテ(三、完).....法學博士 神戸 正雄

我取引所擔保業務ト保險事業トノ差異.....法學士 小島昌太郎

太閤檢地ノ研究.....法學士 牧野新之助

參觀交代制度ノ經濟觀(二).....法學士 本庄榮治郎

時事問題

支那ノ立國策ト其參戰問題.....法學博士 戸田 海市

對印爲替問題.....法學博士 神戸 正雄

雜錄

世界金融ノ中心トシテノ倫敦ノ地位.....法學博士 神戸 正雄

續市統計所小觀.....法學博士 財部 靜治

歐米ニ於ケル勞働組合ノ近況.....法學士 山本美越乃

長野縣ノ蠶絲業.....法學士 河田 嗣郎

雜 錄

世界金融ノ中心トシテノ 倫敦ノ地位

神戸 正雄

本編ハ主トシテ其材料ヲ最近一九一六年十一月發行ノ米國政治及社會學會誌所載ヘタソン・ボン・阿氏ノ論文*ニ採リ、之ニ他ノ材料ヲ加ヘテ立論シタモノデアル。

緒 言

(一)從來倫敦ハ世界金融ノ中心デアッタ。世界ノぐりーありんぐはうすデアッタ。其意義ハ倫敦ニハ世界各國ノ銀行ノ支店代理店ガ置カレテ、世界ノ殆ンド總テノ國トノ間ニ爲替關係ガ開カレ、世界中ニテ發行サルル信用狀ノ九割マデハ此倫敦宛ニテ出サレ、倫敦宛ノ手形ハ何處ニテモ最多ク歡迎セラレ、英國自身ノ支拂關係ガ倫敦ニテ決済セラルルノミナラズ、英國外ノ世界ノ一國ト他ノ國トノ間ノ支拂關係モ亦英國ヲ通ホシテ決済セラレタ。例之米國ガ支那日本ニ其

雜 錄 世界金融ノ中心トシテノ倫敦ノ地位

生糸茶ノ代金ヲ支拂フニモ倫敦宛ノ手形ニテ支拂ヒ、日本ガ印度ニ綿花代金ヲ支拂フニモ、否ナ獨逸ガ露國ニ支拂ヲ爲スニスラモ此倫敦ヲ經由スル程デアッタ。(二)然ルニ此度ノ大戰爭ハ此事情ニ變動ヲ齎ラシタ。(A)特ニ獨逸ヲ初メトシテ同盟國側ノ諸國ハ英國トノ爲替關係ヲ絶タレテ、其レダケハ確ニ倫敦ノ活動舞臺ガ狭クナツタ所デアルガ、更ニ(B)其他ノ國々モ倫敦ヲ經由セズシテ紐育ヲ利用スルモノヲ増加シタ。即チ(イ)米國自身ガ從來倫敦ヲ經由シタノヲ止メテ、直接他國ト關係ヲ附ケルコトヲ多クシ、(ロ)日本ヲ初メトシテ諸他ノ國々ガ紐育ニ爲替資金ヲ移スコトトナツタ。茲ニ於テカ倫敦ノ世界金融ノ中心トシテノ地位ハ若干輕クナツタ譯デ、此事ハ戰後モ續クデアラウトイフ風ニ考エラルル。ガ倫敦ニハ他ノ地ノ到底企及スヘカラザル優秀ナル條件ノ備ハルモノデアルカラ、平和克復ノ後ニモ其地位ノ甚シク低下スルコトハアルマイト思ハルル。下ニ聊カ之ヲ吟味シテ見ヤウ。

(第二) 倫敦對伯林

第四卷 (第四號一一一) 五七七

* Patterson, London and New York as financial centers. Bonn, The nationalization of Capital. (The annuals of the American Academy of Political and Social Science Nov. 1916.)

此戰時中獨逸側諸國ノ金融カ倫敦ヲ去ツタガ、此事ハ恐ラクハ戰後ニモ繼續シテ、彼等ハ伯林ヲ中心トスル一ノ金融圈ヲ作ルデアラウト想像サルル。其ハ次ノ如キ成行ガアルカラデアアル。(一)戰前ニ於テハ資本ノ國際化ガ行ハレテ、英佛獨等モ互ニ貸借關係ヲ結ンデ居ツタ。獨逸ハ先ツ其ノ(A)外國貿易上ノ支拂ヲ大部分倫敦ヲ經由シテ行フタ。蓋シ獨逸ハ戰前ニハ其必要トスル原料ノ大部分ハ之ヲ英領殖民地カラ得タ(一九一二年ニ獨逸ガ重ナル英領殖民地ヨリ得タルモノ六億三千萬圓)ソシテ之ニ對シテ獨逸ハ製造品ヲ輸出シタガ、之ニ關スル決済ヲ倫敦ヲ經テ行フタハハ固ヨリ自然ノ成行デアアル。加之英國以外ノ國々ヘノ支拂ニモ類似ノ方法ニヨツタ所デ、斯クテ獨逸ノ銀行ハ其支店ヲ倫敦ニ設ケ、又ハ倫敦ノ銀行ニ勘定ヲ有ツタ。獨逸人ノ倫敦ニ有ツタ流動資本ハ隨テ頗ル巨額ニ上ツタ。ふらんくふるた一ツあいつんぐニ依ルト十億圓ニモ上ツタトイフ事デアアル。(B)此大ナル資金ノ存在ハ總ガテ獨逸資本ノ倫敦株式市場ヘノ干與ト

モナツタ。又獨逸人ノ倫敦株式市場ノ利用ガ右大資金存在ノ原因デモアツタ。一ニハ倫敦取引所ノ方ガ證券ヲ場ニ上ホスコトニ就イテ獨逸ノ取引所ヨリモ寛デアアルノ故ニ、獨逸ノ資本家ニシテ若干危險大ナルモ興味深キ證券(例之、金礦株、護謨株)ニ投機セントスルモノハ勢ヒ倫敦取引所ニ往クコトトナツタ。又一ニハ大體英國ノ方ガ獨逸ヨリモ金利ガ安イカラ、外國ヨリ堅實ナ事業ノ爲メニ金ヲ借リニ來ルモノハ、獨逸ヨリハ英國ヲ選ム傾ガアツテ、隨テ獨逸人ニシテ確實ナ外國證券(例之、米國鐵道證券)ニ放資又ハ投機セントセル者ハ英國ノ取引所ニ往ツテ買取ラナケレバナラヌ。斯クシテ獨逸人ニシテ倫敦取引所ヲ利用シテ活動スルモノハ頗ル多カタ。(C)其ト關聯シテハ獨逸人ガ英國ノ事業ニ投資スルコトモ多ク行ハレ、反對ニ英國人ノ獨逸事業ニ關係スルモノモ少クナカツタ。例之獨逸會社ガ南阿金鐵ニ於ケル動力裝置ヲ完成シ、獨逸ノ染料會社ガ英國ニ分工場ヲ置イテ活動シ、他方ニ英國資本家ガ獨逸ノ纖維工場ニ干與

シ、獨逸ノ煙草工場ニモ出資シタ。

(二) 此資本ノ國際化ニ對シテハ戰前ニ反對運動モアツタ。佛國ニ先ツ發シ、獨英ニモ反響ヲ見タ。
(A) 其ハ保護論者カ資本ノ輸出ヲ以テ其保護政策ニ反對ストスルニ在ル。即チ資本ヲ他國ニ貸出セバ、敵ヲ利シ己ヲ損スルコトニナル。先方ハ豐ナル資本ヲ以テ安ク生産シ得ルコトナルノニ、我ハ資本ヲ減少シ、高利ナル資本ヲ使用スルダケ生産費ノ増加ヲ見テ、競争上我ニ不利トナル。保護政策ノ趣意ニ反ストイフノデアル。
(B) 併シ此ニ對シテハ戰前ニハ容易ニ答辯スルコトヲ得タ。所詮資本ガ出テ行クノハ其ノ方ガ國內ニテ利用サルヨリモ一層有利デアレバコソ行ハルノデ、又文明國ノ間デハお互ニ他ノ資本ヲ利用シ合ツテ居ル所デモアル。一方的ニ其貸付ノ行ハルノハ未半開國ニ對シデアアルガ、此ハ總ヘテノ文明國ノ必要トスル原料ノ供給ヲ確保シ、及ビ未半開國民ニ購買力ヲ養フテ文明國製造品ノ販路ヲ擴張スルニ有要デモアル。資本ノ輸出ニヨリ先方ノ競争條件ヲ良好ニ

ハスルガ、我ガ資本ノ出テ行クトイフノハ、我ノ資本ノ國內事業ノ爲メニ足ラストイフ場合デハナクテ、有リ餘ルヨリ起ルノデアルカラ、假令資本ガ先方ニ増加シテモ、此方ヨリモ一層有利ニナルトイフコトハナイ。資本ニツイテ競争上我ニ不利トイフ程ノコトハアルマイ。特ニ此國際投資ニヨリ國際證券ヲモツコトナリ、之ヲ以テ外國支拂ニ充ツルコトモ出來レバ、必要ノ場合ニ外國ニ賣却シテ國內正貨ヲ充實スル用ニ供スルコトモ出來ル。其外國支拂ニ充テラルル場合ハ對外支拂費用ヲ減少スルノ效モアル。其レカラ大クイヘバ國際間ノ平和ヲ維持スルノ力モ若シハアル。實際戰前ニハ此國際間ノ貸借關係ノ錯綜トイフコトアルノ故ニ、戰爭容易ニ起ラズト考エラレテ居タ程デアアル。

(三) 然ルニ開戰後、此答辯カ獨逸側諸國ニテハ不満足ニ感セララルコトナツタ。彼等ハ戰時ニ於ケル國際從屬、資本ノ國際化、又ハ金融上ニ於ケル倫敦倚屬關係ノ危險ヲ經驗スルコトナツタ。而シテ資本ノ國民化、又ハムシロ彼等ノ

間ニ伯林ヲ中心トスル獨立ナル金融圈ヲ作ルノ必要ヲ感ズルコトトナツタ。トイフノハ英國ガ開戦後もちろむヲ行ヒ、其ハ大シタ事ハナカツタニセヨ、特ニ一九一四年八月五日卒先シテ對敵取引禁止令ヲ布キ、獨逸人及獨逸在住人ニ對スル配當利子利益等一切ノ支拂ヲ停止シ、

加之彼等ノ財産、其會社法人私人ノ店ヲモ管理人ノ手ニ任カスコトトナリ、英帝國ニ在ル敵國人ノ資財ヲ一切差押フルコトトシタ。此處分ハ獨逸側ニハ少カラズ意外ノ感ヲ生ゼシメ、戰後ニハ如何ニシテモ倫敦ヲ經由セズシテ國際支拂ヲ爲スノ道ヲ開カナケレバナラヌトノ覺悟ヲ定メシムルコトトナツタノデアル。勿論同盟國以外ノ國々特ニ聯合國ニ至テハ倫敦排斥ノ感ヲ生ズルガ如キコトハナカラウ。聯合軍側ノ國々ハ戰時中一層英國ノ金融上ノ援助ヲ得テ居ルコト故、戰後倫敦トノ關係ハ一層密接トナラウシ、中立諸國カライフテモ、別ニ獨逸側諸國ノ如キ感ヲ懷ク理由ハナク、倫敦ノ方ガ伯林ヨリモ一層便ト感ズル所デアリ、倫敦ヨリモ紐育トイフ

コトモ、此戰時中ハ兎ニ角、戰後ニハ感ゼザルコトトナルデアラウ。此戰爭終結ノ後ハ、更ナル戰爭ノ危險ハ倫敦ヨリモ寧ロ紐育ニ在リトモイハルル。要スルニ反倫敦觀ハ伯林ヲ中心トスル同盟國側ニ強烈デアル。

(第二) 倫敦對紐育

伯林ノ倫敦ニ對スル關係ハ、戰爭ニ基ク政治的偏見ニ依ツテ定マルノデアルガ、紐育對倫敦關係ハ現今ノ聯合國中立國ガ公平冷靜ニ各種條件ヲ比較シタ上デ決定スヘキモノデアアル。此度ノ戰爭ニ入リテヨリ紐育ガ若干倫敦ノ地位ヲ奪ツタコトニハナツタガ、併シ仔細ニ各條件ヲ點檢シ來ルト、倫敦ノ優越ナル地位ハ容易ニ動カサレザルコトヲ見ル。紐育ハ此戰爭ノ機會ニ乗ジテ將來第二位ノ金融中心トシテ、倫敦ノ補助者タル地位ヲ占ムルデハアラウガ、最上ノ中心タル地位ニ到ルノハ未ダシデアアル。左ニ倫敦ガ世界金融ノ中心トナルヲ得タル各條件ヲ列舉シ、

(一) 自然的條件

(A) 地位——倫敦ハ世界ノ各地ト交通聯絡ヲ取ルニ便ナル地位ニアリ、特ニ世界中デ最良ク開ケタ歐羅巴ノ支關タルノ地位ヲ占メ、紐育以外ノ世界ノ重ナル諸商業中心ヲ程遠カラザル處ニ持ツテ、其中樞ニ居リ、以テ世界金融中心タルノ任務ヲ盡スコトヲ得ル。特ニ倫敦ガ外國爲替及有價證券ノ賣買ニツキ有利ナノハ、彼カ東部諸地(伯林、巴里、聖彼得堡)ノ市場ノ閉ヅル前ニ其等諸地ノ情况ヲ知ツテ之ニ向ツテ對策ヲ講ズルコトガ出來、而モ又此等市場ノ閉ヂタル後、倫敦自身ノ市場ノ開カレ居ル間ニ、西ノ方紐育ニ向テ働キ掛クルニ十分ナル時間ヲ有スルコトデアル。此等ノ點ニ於テ紐育ハ到底倫敦ニ及バナイ。之ヲ變更スルコトモ出來ナイ。

(B) 地勢——英國ノ海島國タルコトハ、此國ヲシテ敵軍ノ侵入ヨリ安全ナラシメ、隨フテ倫敦ヲシテ歐洲中デハ最安全ナル資金ノ貯藏所タラシメルコトトナリ、世界ノ資金ガ此地ニ集ツテ世界金融ノ中心タラシムルコトトモナル。但シ此點ヨリイヘバ諸強國ト大洋ヲ以テ隔タル所ノ

紐育ノ方ガ一層安全ナリトイフコトガ出來ル。

(C) 氣候風土——倫敦ハ氣候ガ溫暖デ不凍港タリ、隨テ交通上便利ナルコトモ、亦タ此地ヲシテ世界金融中心タラシムル一條件トナル。此點ニ於テハ紐育ハ倫敦ト甲乙ハナイ。

(二) 心理的條件

(A) 其國人ノ心理

(イ) 銀行家タル資質ヲ備フルコト——一國ガ世界ノ金融中心トナルノニハ其國民自身ガ銀行家のデナケレバナラス。然ルニ英國人就中其蘇格蘭人ハ天性來ノ銀行家デアル。謹嚴、寡言、誠實、綿密等ノ特徵ヲモチ而モ銀行家トシテ古クヨリヤツテ居ルダケニ遺傳的ニ良素質ガ傳エラレテ居ル。國ガ開ケ過ギテ居ルダケニ銀行ノ如キ堅實薄利ノ事業ニ當ラウトイフコトニモナリ易イ。然ルニ米國デハ其天然資源ガ豊富デ、銀行家ヨリハ事業家トシテ一層大利ヲ擧ゲヤウトイフ誘惑モ多ク、特ニ米人ニハ大體、速ク致富セントノ念、熱中、移リ氣、銳敏、恐慌沈滯後間モナク樂觀トナルコト、投機熱、誇大狂等

ノ特性ガアツテ、彼等ヲシテ生産者商人廣告屋
授機師トナラシムルトモ、銀行家トシテハ疑問
タラシムル所デアル。倫敦ガ世界金融中心タル
ヲ得ル反對ニ、紐育ハ斯ノ如クナルコトノ困難
ナル原因デアル。

(ろ)營業道德ノ堅固ナルコト——世界金融ノ
中心トナツテ外國ノ資金ヲ預ルノニハ、外國ニ
安心ヲ與ヘ、信用ヲ受クルダケノ道德ガ存シナ
ケレバナラヌ。英國ニハ既ニ之アリ、而シテ米
國ハ今ノ處ハ未ダシデアル。

(は)金融上集中的精神ノ存スルコト——一ノ
市ガ世界金融ノ中心トナルノニハ、其市ガ其本
國自身ノ争フヘカラサル金融中心デアラナケレ
バナラヌ。其國ノ中心トナレナイヤウデハ、世
界ノ中心トハナレナイ。其國民ノ間ニ其市ヲ少
クトモ金融上中心タラシムルノ精神ガ存シナケ
レバ、其市ガ世界ノ金融中心ニナレルモノデナ
イ。倫敦ハ英王國ノミナラズ英帝國ノ金融中心
トシテ一般ニ認メラレテ、其處ニ何等地方的ノ
嫉妬ナドガ行ハレナイ。ばーみんがむ、りばふ

ゝる、ぐらすじう又ハ其他ノ大市ニテ、此點ニ
關シ倫敦ノ優越權ヲ疑フモノハナイ。國內ノ凡
ヘテノ銀行ガ倫敦ニ支店代理店ヲ置イテ此處ニ
集中シテ居ル。然ルニ紐育ハ米國ノ主要ナル金
融中心デハアルガ、其唯一ノ金融中心デハナイ。
しかゴ、せんぞるいす、さんふらんしす其他
ノ重要ナル中心ガ國內取引ニツキ紐育ト競争シ
テ居ル。隨テハ或度マデ外國取引ニツイテモ競
争スルコトニナル。勿論米國ノヤウナ大ナル國
デ斯カル分裂的傾向ノ生ズルノハ怪ムニ足ラナ
イ。否ナ此分裂的精神ハ彼ノ政治組織ノ精神デ
モアル。斯クテしかゴトみねあほりすトハ大ナ
ル西加奈陀ノ發達ニ重キヲ置キ、さんふらんし
すトハ東洋トノ取引ノ擴張ニ重キヲ置キ、にゆ
うおるりあんすハ巴拿馬運河ノ開通及南米貿易
ノ發展ヲ大事トスル。斯ノ如クニシテ諸多ノ中
心ガ紐育ノ金融上ノ優勢ヲ助長スルヨリハ抑制
スルコトトナル。

(に)海外放資及企業心ノ大ナルコト——國民
ニ海外放資及企業心ノ盛ナルコトモ、海外諸地

トノ金融聯絡ヲ密接ナラシメ、且ツ各地ヨリ其
利子利得トシテ資金ヲ集中セシメ更ラニ各地へ
其投下トシテ散出セシメテ、其國ノ或市ヲシテ
世界金融ノ中心トナラシムル所以デアル。英國
ハ元ト徐々ニ財産ヲ作ツタ國デ、此地ノ銀行家
及商人ハ小利得ニ満足シ、直チニ利益ヲ擧ゲザ
ルモ、先キニ利得サヘ得ラルル見込アレバ甘シ
ジテ放資シ、彼等ハ又久シク貿易ハ放資ニ伴フ
トイフ格言ヲ經驗シ、此點カラシテモ直接ノ報
酬又ハ大ナル利益ナクトモ外國ニ投資スル。然
ルニ米國人ハ此氣分ガ乏シイ。米國ハ人口ノ割
合ニ大ナル面積ヲ有シ、其天然資源ハ未ダ十分
ニ開發セラレ居ラズ且ツ急速ニ財産ノ得ラレタ
ル國デアアル。故ニ外國ヘノ放資ハ英國ホドニハ
盛ナルヲ得ナイ。海外企業ニツイテモ、英國ノ
平均家族ハ米國ヨリハ大デアリ、青年ハ本國ニ
テ良キ仕事ヲ得ルノ機會少ク、斯クテ其學校又
ハ社會ニテ養ハレタル遊戲的精神ヲ以テ、盛ニ
外國及殖民地ノ銀行及商店ニ店員トシテ行カウ
トスル。冒險的ニ海外ニ出テ行カウトシ、本國

ヨリ如何ニ遠キ處ニテモ辭セズシテ、未開國ノ
開發ヲ爲サウトスル。他方米國ノ青年ハ本國ニ
多クノ仕事ノ機會ヲ有スルヨリ、娛樂ノ爲メノ
外ハ外國ニ出テ行ク誘惑ガ少イ。外國ニ行テ働
ク傾ガ英國人ニ劣ル。例之こんねくちかつとニ
テ主トシテ東洋ニ支店ヲ出スコトノ許可ヲ得タ
ルいんたーなしをなるばんきんぐこるぼれーし
よんノ例ニ依ルト、其支店ノ使用人ニ外人ガ多
イトイフコトデアアル。斯クテ戰前英國ノ海外放
資四百億圓（一説四百六拾億圓）ナルニ米國ハ百
貳拾億圓ノ負債國デアツタ。開戰後二年間ニ米
國ハ八拾億圓ヲ返ヘシタガ、未ダ及バザルコト
遠イ。デ英國デハ夫ノ海外投資ノ利子利得トシ
テダケデモ年貳拾億圓ツツ外國ヨリ受入レテ、
其資金ヲ充實シテ居タ所デアアル。

(B) 外國人ノ心理——即チ倫敦ノ金融市場ニ對
スル外國人ノ信用ハ長年ノ產物デ（英蘭銀行ノ
設立ハ一六九四年ニ係リ、其ヨリ段々信用ヲ増
進シツツアツタ）一朝ニシテ變ズルモノデナイ。
倫敦宛手形ハ金ニ齊シトシテ殆ド國際的通貨タ

ルノ威力ヲモツタノガ、戰爭ニヨリ一時少許不利トナツタトテ、此非常ノ場合ノ現象ノ爲メニ信用ヲ落スコトハナイ。却ツテ此未曾有ノ大戰ニ際シ聯合與國ニ大金融ヲ爲セルニ拘ラズ、尙ホ兌換ヲ維持シ、金ノ輸出ヲ制限セザルコトハ確カニ其信用ヲ一層厚カラシムルモノデアル。

特ニ此度ノ戰爭ニ於テ表ハシタル英國人ノ愛國心ノ意想外ニ強カツタコトモ彼ノ未ダ墮落セザルコトヲ證スルモノデアル。夫ノ信用ノ根底ハ畢竟スルニ英國人ノ道義心、銀行家トシテノ能力、其大實力、其財産保護ノ確實、外敵侵入ヨリノ安全等ニ在ルノデ、多クノ點ニ於テ紐育ノ到底及ブヘカラザル所デアル。

右心理の條件ノ中ニツキ其國民ニ存スルモノハ教育訓練ニヨリ若干矯正スルコトモ出來ルガ、外國人ノ心理ニ存スルモノハ容易ニ之ヲ變ズルコトハ出來ナイ。

(三) 政治的條件

(A) 領土ノ洪大

(イ) 領内ニ世界ノ原料ノ大部分ヲ產出スルコ

ト——モ亦他國ヲシテ勢ヒ英國銀行ノ助ヲ借ツテ其支拂ヲ決済セシムルコトナリ、隨フテ倫敦ヲシテ金融ノ中心タラシムルコトトモナル。此點ニ於テハ米國隨フテ紐育モ必スシモ不利デハナイ。米國ガ英國ニ劣ル最重ナルモノハ羊毛デアアルガ、之ニ對シ棉花ニツキテ米國ハ英國ニ優ルカラ、埋合セガ附イテ餘リガアル。

(ロ) 領内ニ世界產金ノ大部分ヲ產出スルコト——即チ世界產金ノ三分二約七億圓ガ英領内ニ產出セラレ、此大金ガ英國ヲシテ金ノ充實ヲ得セシメ、非常ノ時ニモ尙能ク兌換ヲ維持シテ以テ英國ヲシテ世界金融ノ中心タラシムルコトヲ得ルノデアル。領内ノ產金ハ即チ金ノ無限ノ源泉デアツテ、此ニツイテハ米國ハ英國ニ劣ル。

(B) 領土ノ安全

(イ) 對外平和政策ノ維持セララルコト——大體英國ハ外國ニ對シテ努メテ平和關係ヲ維持スルコトヲ計ツタ所デ、此度ノ戰前ニ英國ハ斯ノ如キモノト思ハレ、其レダケ世界ノ倫敦ノ安全ニ對スル信用モ厚カツタ譯デアル。此度英國ガ

參戰シタノモ萬己ムヲ得ザルニ出テタニ過キナイ。此戰時中ニハ米國ノ方ガ英國ヨリモ安全トハナツタガ、米國ト雖モ他日戰爭ノ渦中ニ投セズトハ限ラズ、此點ニ於テ紐育ガ倫敦ニ優ルトイフコトハ出來ナイ。

(ろ) 海軍力ノ偉大ナルコト——即チ英國ニ外敵ヲシテ其領土ヲ侵サシメザルダケノ十分ナル海軍力ノアルコト、開戰二年有半ニナルガ、未ダ敵國飛行船スラ別段ノ打撃ヲ與フルコトノ出來ザル程ナルコトモ亦タ、倫敦ヲ安全地トシテ認メシムル所以デアル。此點ニテハ紐育モ略ボ同様也トイヒ得ル。

(C) 各種自由ノ享有

(い) 銀行營業ノ自由ナルコト——英國デハ自國銀行ノ外國ニ支店ヲ出スコトヲ許スハ勿論外國銀行ノ支店ノ開設ヲ許ス所デモアル。外國銀行支店ノ設立ヲ特ニ獎勵ハシナイガ、其活動ヲ制限モシナイ。凡ヘテ相當ノ信用アルモノノ來ルコトヲ拒マナイ。之ニヨリ若干英國銀行ノ競争ヲ増スコトニハナルガ、他方ニ此外國支店銀

行ノ直接ノ爲替上ノ活動ト其世界中ニ巨ル取引先ノ網トヲ以テ英蘭銀行ノ金融市場ノ調節ヲ計ルコトヲ助クルコトトナル。然ルニ紐育デハ其銀行ノ外國ヘ支店ヲ出スコトモ極最近ニ至テ漸クニシテ許スコトトナツタニ止マリ、外國銀行ノ支店ニハ抑制ヲ加ヘ、此ニ預金ヲ取ルコトヲ許サズ手形割引ヲ行フコトモ許サズ、其營業ノ重ナルモノハ僅カニこころゝんと爲替トニ止マル。斯ノ如クニシテハ到底内外ノ金融ヲ密接ニシテ、國際金融ノ中心トナルコトハ出來ナイ。

(ろ) 關稅又ハ貿易ノ自由ナルコト——英國デハ少數特定貨物ノ外ハ一般ニ無關稅デ、啻ニ外國品ガ何時ニテモ此國內ニ販路ヲ見出スノミナラズ、英國商人及他國人ハ英國國內ニ無關稅ニテ一旦商品ヲ輸入シ、此處ニテ販路ヲ見出セバ可、假令此處ニテ適當ノ販路ヲ見出スヲ得ズトモ、事情ニヨリテハ再輸出ヲ計ルコトカ出來、又諸方ヨリ持來ラレタル荷物ヲ此處ニテ仕分混合ヲ爲シテ外國ニ分配スルコトモ出來、斯クテ英國ガ貨物ノくくりありんぐはうすトシテ働クコト

ニナル。而シテ其貨物ノ出入ニ伴フテ爲替又ハ金融ガ行ハルコトトナリ、應ガテ倫敦ヲシテ國際金融ノ中心トモナラシムルニ至ル譯デア。之ニ異リ米國デハ高キ關稅ガアツテ、此ガ改正ハ仲々困難デアラウ。隨テ紐育ハ右倫敦ノ如キ勵ヲ爲スコトハ出來ナイ。尤モ英國デモ近頃保護主義ノ思想全盛トナツタシ、戰後ノ財政必要カラシテモ保護關稅ノ行ハルコトトハナラウガ、其ニシテモ其關稅カ他ノ競爭諸國ヨリモ低キコトカ出來ルダケデハ、此點ニ於テ左シタル不利ハナイ。

(ハ)航海ノ自由ナルコト——英國ノ從來ノ航海法ハ自由デア。外國船ハ英國貿易ニ關シテ英國船ト同一ノ待遇ヲ受ケ、沿岸貿易ニ從事スル外國船モ英國船ヨリモ高キ入港稅ヲ課セラルルコトハナイ。外國海員モ英國海員モ公平ナル保護ヲ與ヘラル。是レ不當ノ保護ニヨリテ英國人ヲ虛勢セザル所以デア。隨テハ外國船ノ出入ガ自由トナリ、以テ結局倫敦ノ金融上ノ勢力ヲ増大スルコトトモナル。然ルニ米國ノ航海

法ハ外國船ニ沿岸貿易ヲ許サザル主義ヲ採リ、海員法ニヨリテ內國ノ航海業者ヲ苦シメテモ居ル。到底航海ノ便利ヲ進ムルコトニハナラス。近頃英國商業會議所聯合會ガ其航海ニツキ英國及殖民地ノ船舶ト聯合與國中立國船ト更ニ敵國船トノ間ニ不對等ノ取扱ヲ爲スノ決議ヲ爲シタガ、此ガ行ハルルトスレバ、夫ノ事情ハ多少英國ノ爲メニ不利トナルデアラウ。

(D)財産權ノ安全——英國デハ從來私有財産ノ保護ガ他國ヨリモ厚ク、隨テ各國モ銀行支店ヲ安心シテ此處ニ置キ、外國人モ安心シテ此ニ預金ヲ置クコトトナツタ傾ガアル。隨フテハ倫敦ノ金融中心タルコトヲ助ケタ所デア。然ルニ米國デハ此保護ガ必スシモ厚シトハイヘナイ。彼ノ排日的制度ハ其例證デハナカラウカ。

(四)經濟的條件

(A)金事情

(イ)支配スヘキ金ノ大サ——英國デハイザトイヘバ手ニシ得ヘキ金ガ頗ル大デ、夫ノ領土內ノ年金產額七億圓ノ外ニ、海外投資ノ利子年々

二十億圓ガアリ、其他ニ其銀行、商業、交通手
數料、保險料等ノ巨大ナルモノガアリ。此等ハ
必スシモスヘテ金トシテ入り來ルモノデハナイ
ガ、金トシテ入ルコトトナリ得ルモノデアル。
又英國ノ銀行貿易及交通組織ハ必要トアレバ、
其金利引上策ニヨリテ外國ヨリ最容易ニ金ヲ呼
入レルノ便ヲ有ツ。此等ニ於テ紐育又ハ米國ハ
到底之ニ及ブコトヲ得ナイ。

(ろ) 金ニ對スル態度——右ノ結果ハ倫敦ヲシ
テ金ノ自由市場タラシメタ。世界ノ四大爲替中
心(倫敦、紐育、巴里、伯林)ノ中ニテ倫敦ガ金
ノ合法的需要ニ應スルニ於テ信賴スヘキ唯一ノ
市場デアツタ。英國ノ磅ニテ表ハサレタル紙ヲ
金ニ換ユルニ於テ猶豫ナク且ツ無打歩ニテ行ハ
レタ。一八一六年金本位ヲ採ツテ以來、金ニ打
歩ヲ附スルコトモ其輸出ヲ制限スルコトモナ
イ。十九世ノ初メノ處デハ兌換停止モアルガ、
久シク此ガ行ハレヌ。此度ノ大戰争ニナツテ對
敵禁止ハシテ居ルガ、兌換停止ハセヌ。金ノ輸
出制限モセヌ。運送ノ危險サヘ負擔スルナラバ、

之ヲ國外ニ支拂ノ爲メニ出スコトヲ得ル。英國
商務長官らんしまんハ近頃曰ク、金ノ輸出ヲ禁
止スルコトハ吾人ニハ必要デハナカツタ。吾人
ハ自由ナル金ノ基礎ノ上ニ、吾人ノ債務ヲ支拂
フノ用意ガアル。一九一四年八月以來英國ハ壹
億參千八百五拾萬圓ノ金地金及貨幣ヲ取引ノ普
通ノ需要ノ爲メニ輸出シタ。此外ニモ政府勤務
ノ爲メニ英蘭銀行ニヨツテ輸出サレタル巨額ノ
金ガアル。箇人ノ何人モガ地金取引ニテ處理ス
ルコトヲ選ムナラバ、此方法ニテ外國ニ負債ヲ
支拂フコトヲ妨ゲラレナイト。他方ニ他ノ國々
ニテハ正常時ニスラモ此態度ヲ採ルコトハ出來
ナカツタ。佛蘭西銀行ハ金カ銀カニテ支拂フ權
利ヲ留保シ、隨テ逼迫セル場合ニ、金ニ打歩ヲ
附スルコトガ出來ル。獨逸帝國銀行ハ明文上ハ
金ヲ拂フガ、實際ニハ或銀行又ハ箇人ガ輸出ノ
爲メニ金ヲ需要スルニ對シテハ之ヲ不快トシタ
ル所デアル。ソシテ開戦以來ハ佛獨トモニ金兌
換ノ停止ヲ行フタ。紐育ハ實際少クトモ聯合準
備銀行ノ出來ル前ニハ、金ノ輸出困難デアリ、

往々ニシテ不能ナルコトガアツタ。勿論戰時ニ入ツテ倫敦ノ自由金市場トイフコトハ交通ノ困難及危險ノ爲メニ減殺サルルコトニハナツタガ、此間ニ處スル英國ノ政策ノ確實ハ世界ノ人ニ信頼ヲ感セシメ、特ニ聯合與國トノ關係ハ一層密接トナリ、他ノ國々ヲシテモ此處ニ爲替資金ヲ置クコトニ心配ヲ懷カザラシメタ所デアラウ。紐育ニ至テハ未ダ此ト對等ノ信用ヲ博スルダケノ域ニ達シテ居ラヌ。

(B) 其他ノ各種經濟事情

(イ) 銀行——倫敦ニハ其國自身ノ銀行ト外國ノ支店銀行トヲ以テ最多數ノ銀行ガアリ以テ世界ノ資金ヲ集散シ、當務者ハ良ク訓練セラレ、銀行法モ簡單デ、法定準備ノ制限ナク、斯カル問題ハ銀行家ノ賢明ナル判斷ニ任カサレ、而モ此國ノ銀行者ハ經驗上適當ナル準備ヲ保ツコトヲ怠ラズ、恐慌ニ處シデ良ク之ヲ切拔ケ、良キ信用ヲ博シテ居ル。特ニ其割引政策ハ其各種ノ便宜ト相待テ有功ニ利用セラレ、其割引歩合ノ一上一下ニヨリ海外ヨリ資金ヲ集メ、海外ニ之

ヲ散スルコトヲ得ル。米國ノ銀行ハ其運用ガ未ダ斯ノ如クニ甘クハ往テ居ラヌ。

(ロ) 投機市場——倫敦ノ取引所ハ其場ニ上ボル所ノ證券モ最多ク且ツ取引モ最便利デアル。内外ノ證券ヲ外國人ヲシテ此ニテ盛ニ取引セシムル。隨テハ資金ノ集散ヲ助長シ、倫敦ノ世界金融ノ中心タル地位ヲ進ムルコトナル。

(ハ) 貿易——英國ノ貿易ハ自國ノ大工業及殖民地ノ洪大ノ爲メノミナラズ、歐諸國否ナ世界諸國ノ爲メニ大ナルコトガ出來、倫敦ハ世界ノ最大ノ商業中心トナツテ居ル。其貿易高ハ一九一三年ニ輸入七拾六億圓輸出六拾三億圓、一九一五年ニハ英國及聯合與國政府ニ屬スル物ヲ別トシテ輸入八拾五億輸出四拾八億ニ達スル。戰時船腹減少シ平時の需要品ノ生産力減少シタルニ拘ラズ此丈ノ成績ヲ示セルハ其實力ノ大ヲ知ルニ足ル。又英國カ自國需要品ノミナラズ外國需要品ノ輸入ヲ盛ニ取扱フコトハ、戰前四年ニ於クル外國品ノ再輸出各年拾億圓以上ナルニヨリ察スルコトガ出來、又獨逸ノ銅ノ消費二十六

萬噸ナルニ對シテ其市場ノ賣上高三十六萬噸、英國ノ銅消費十四萬噸ナルニ對シ倫敦めたるえきすちゐんちノ銅賣上高五十二萬噸ナルニヨリテモ分カル。(銅ハ世界ノ全產額ノ七割ガ米國產)此等ノ結果ハ自然英國ノ爲替ノ互大多樣ヲ齎ラシ、其金融上ノ地位ヲ進ムル。尤モ紐育モ此戰時ニ入リテハ世界ノ何レノ港ヨリモ優レタル貿易額ヲモツコトトナツタガ、(戰前ニハ倫敦漢堡りばぶーるニ及ハナカツタ)併シ其六割以上ハ歐ノ重ナル四交戰國トノ間デ、而モ大部分軍需品デアルカラ、永續スヘカラザルモノデアル。

(ロ)交通及保險——英國ハ海上 於テハ其甚大ナル航海業ト外國船ノ自由來航トニヨリテ、世界ノ何レノ國トモ交通聯絡ヲ有テ而モ最急速良好ナル船便ヲモツ。海上交通ニ於ケル世界ノ中樞デアル。鐵道モ歐大陸ノ重要ナル其ハ最良ノ勤務及設備ヲ倫敦行郵便車ノ爲メニ備ヘ、西伯利亞鐵道ハ實ニ倫敦ト太平洋トヲ最短時間ニテ連絡スル所デアリ、印度支那南阿等トノ直通列車モ時ノ問題デアル。特ニ英國デハ水陸連絡

ガ良ク行届キ、港ト鐵道ノ荷物場トガ一致スルニ於テ便デアル。郵便電信ニツイテモ亦倫敦ハ無双ノ地位ニ在ル。其世界ノ何レノ國トモ急速ナル海陸連絡アルガ爲メニ、國際郵便ノくりーありんぐはうすトシテ勤ク。又英國ハ世界ノ海底電線ノ三分二ヲ所有シ且ツ管理シ、倫敦ガ世界中ノ重ナル處ト直接連絡アル大ナル電信中心タルノモ當然デアル。此勤務ハ今日ハ無線電信ニヨリ補ハルル。英國ハ又夫ノ大海運業ト關聯シテ、自ラ海上保險ニ大關係ヲ有シ、其保險會社ノ大ナル力ハ能ク外國ノ海上保險ニモ寄與シテ居ル。日本ノ外國貿易ノ如キモ彼ノ力ニ待ツモノガ多イ。英國ノ海上保險業者ノ組合タルろいどハ世界中ニ代理者ヲ置イテ、電報ニテ信頼スヘキ海上報導ヲ爲サシメテ居ル。又ろいどれぞすたーヲ作りテ内外船舶ノ事項ヲ記録スル。此等何レノ點ニ於テモ紐育又ハ米國ハ未ダシデアル。

結 論

要之英國ノ世界金融中心トシテノ地位ハ此戰

爭ニヨリ若干低下シタガ、併シ仲々根柢ノ深イ
 モノガアルカラ、他ノモノガ其優越權ヲ奪フコ
 トハ容易ノコトデハナイ。紐育ハ其ノ此ニ於ケ
 ル地位ヲ高メタガ、尙ホ前者ノ補充的地位ニ止
 マリ、又斯ノ如キモノトシテ頗ル有益ノモノデ
 モアル。紐育ガ倫敦、凌グトイフノニハ法制慣
 習心理等ノ改良ヲ要スルモノ多ク、到底短日月
 ニテ望ムコトハ難イ。他方ニ伯林モ亦別働的ノ
 中心トシテ發展スルデアラウシ、斯ガル分裂的
 傾向ハ從來ノ集中ニ比シテ多少不便デハアル
 ガ、危險分散ニハ適フ。又其不便モ或中心ト他
 ノ中心トノ連絡ノ生ズルコトニヨリテ緩メラル
 ル。而シテ斯ノ如ク世界金融ガ分裂スルニ於テ、
 來ルヘキ時代ニ於ケル東南洋ノ發達ガ東亞ニ更
 ナル金融中心ヲ生ズルコトトナツテ、其中心ガ
 其霸權者タルヘキ日本、其又タ東南洋貿易ノ中
 心タル大阪ナルヘキコトハ之ヲ想像シテ大過ナ
 カルヘシト思ハルル。之ヲ實現スルト否トハ併
 シ國民ノ努力如何ニ係ル。固ヨリ保證ノ限デハ
 ナイ。